



陸軍歩兵中尉坂元守吉叙勲ノ件
右謹テ裁可ヲ仰ク

大正七年一月十七日

内閣總理大臣伯爵寺内正毅



内

閣



大正七年一月十七日

賞勳局

内閣總理大臣

賞勳局總裁



陸軍歩兵中尉

勳六等

以元守吉儀、明治四十二

年十二月陸軍歩兵少尉に任官大正二年七月

氣球隊附に補せられ専ら軍用飛行機ノ操縦

ニ關スル研究ニ從事シ大正三年中歐洲ニ派遣

セラレ飛行機ニ關スル研究ヲ積ミ歸朝後特ニ

驅逐用飛行機ノ製作及操縦法ニ關スル研

究主任トシテ本邦飛行界ニ貢獻スル所多

賞勳局

大ナル者ニ候處本日午前九時二十分所澤

飛行場ニ於テ制式第二號試驗飛行中俄

然機ニ故障ヲ生シテ墜落シ生命危篤ニ陥リ

タル趣ニ付此際特別ヲ以テ勳六等ニ叙シ單

光旭日章ヲ授ケラレ度此段允裁ヲ仰ク

賞勳局 九號

勅 二〇

一月廿九日

大正七年一月十七日

内閣書記官

内閣總理大臣

賞勳局總裁



陸軍歩兵

從七位坂元守吉儀、明治四十二

年十二月陸軍歩兵少尉ニ任官大正二年七月

氣球隊附ニ補セラレ專ラ軍用飛行機ノ操縦

ニ關スル研究ニ從事シ大正三年中歐洲ニ派遣

セラレ飛行機ニ關スル研究ヲ積ミ歸朝後特ニ

驅逐用飛行機ノ製作及操縦法ニ関スル研

究主任トシテ本邦飛行界ニ貢獻スル所多

賞勳局

大ナル者ニ候處本日午前九時二十分所澤

飛行場ニ於テ制式第二號試驗飛行中俄

然機ニ故障ヲ生シテ墜落シ生命危篤ニ陷リ

タル趣ニ付此際特別ヲ以テ勲六等ニ叙シ單

光旭日章ヲ授ケラレ度此段允裁ヲ仰ク

陸軍歩兵中尉従七位坂元守吉

右ハ明治四十二年十二月陸軍歩兵少尉任官
 大正二年七月氣球隊附ニ補セラレ専ラ軍用
 飛行機ノ操縦ニ関スル研究ニ従事シ其優秀
 ナル伎倆ハ夙ニ斯界ノ認ムル所トナリ大正
 三年中歐洲ニ派遣セラレ更ニ飛行機ニ関ス
 ル研究ヲ積ミ歸朝後特ニ驅逐用飛行機ノ製
 作及操縦法ニ関スル研究ノ主任トシテ本邦
 飛行界ニ貢献スル所多大ナリシカ本日午前
 九時二十分所澤飛行場ニ於テ制式第二號試
 験飛行中俄然機ニ故障ヲ生シテ墜落シ重傷
 ヲ負ヒ目下生命危篤ニ瀕セリ依テ特別ノ思
 召ヲ以テ勲六等ニ敘シ單光旭日章ヲ賜リ度
 謹テ奏ス

大正七年一月十七日 陸軍大臣大島健一



裏面白紙

勅第八二號

敘勲ノ件進達

大正七年一月十七日

陸軍大臣大島健一

内閣總理大伯爵寺内正毅殿

一陸軍歩兵中尉坂元守吉敘勲ノ件
右進達候也

大正七年一月十七日

陸軍

履歷書

佐加貝縣佐賀郡神野村大字神野二百五十九番地士族

陸軍歩兵中尉從七位坂元守吉

明治三十年七月三十日生

明治四十二年十月廿五日 歩兵少尉

同年同日 歩兵第四十六聯隊附

同四十二年二月廿一日 正八位

大正二年六月廿八日 歩兵中尉

同年七月一日 免本職補氣球隊附

同年九月二十日 從七位

同三年二月廿七日 臨時軍用氣球研究會御用掛兼勤ヲ命ス

同年四月十八日 歐洲へ出張被仰付

同年十月十二日 帰朝

陸軍

大正三年十月十三日 ヲリ氣球隊ニ在リテ大正三四年戰役勤務ニ服ス

同年十二月一日 復員下令

同四年十月七日 大正四年戰役功ニ依リ金二百圓ヲ賜フ

同年十二月十日 補航空大隊附(氣球隊改ム)

同五年一月二十日 満洲へ出張被仰付

同年七月五日 東京砲兵工廠御用掛ヲ命ス

同六年五月二日 免本職補交通兵團司令部附